

# 図書館だより 9月号

川之石高校図書委員会



まだまだ残暑厳しい日が続いていますが、朝晩の涼しい風に少しずつ秋の気配も感じられるようになってきました。

3年次生は進路実現に向けて忙しい毎日を送っています。一方1、2年次生は将来についてこれから考え始めるとい人が多いのではないのでしょうか。社会に出て必要な幅広い教養を身に付けるために、時間を見つけて少しでも本を読むよう心がけましょう。



## 〔新任の先生より〕

### 「五体不満足」(乙武 洋匡 著)

数学科 宮田 誠 先生



私には読書の習慣がありません。私が学生の頃、現在では当たり前となっている「読書の時間」というものではありませんでした。当時、時間があれば友人と体を動かして遊んでいた私にとって、読書といえば夏休み課題の読書感想文を書くために必要だったものに過ぎませんでした。

そんな私が大学生の頃、「将来教員を目指すなら、さまざまな見方や考え方ができたほうがいい」と、友人（博多弁のよく似合う女性でした）に勧められたことでこの本に出会いました。もともと、読書があまり好きではない私でしたが、この本の帯に書かれていた「障がいは不便です。でも不幸ではありません」という言葉に心惹かれ、作者がどのような人生を歩んできたのか興味が湧きました。作者は手と足がない「先天性四肢切断」という障がいのある状態で生まれてきました。無知だった私にとって、作者の生き様に衝撃を受けたことを覚えています。

「不便な部分は周りに助けてもらい、自分でできることは甘えず自分でやる」これは誰にでも当てはまることではないでしょうか。人間誰も得意不得意があります。得意なことは誰かを手助けし、不得意なことは誰かに助けてもらう。よりよい生活を送るうえで、助け合うことは当然のことだと思います。先日行われた体育祭、皆さんには、人に感動を与える力があると分かりました。その力を、これからは誰かを助けるために使っていきましょう。みんなが幸せに過ごしていける世界に向けて。

## 〔図書紹介〕

※今年度新たに川高図書館に入った本です。もう読んでみましたか？

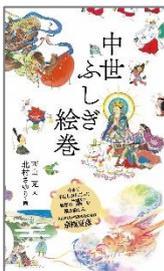


### 『ママがもうこの世界にいても 私の命の日記』(遠藤 和 著)

21才でステージ4の大腸がんと宣告された遠藤和さんは、それでも22才で結婚し、「どうしても子供がほしい」と抗がん剤を止め、23才で出産しました。この本は、24才で亡くなった遠藤和さんが、亡くなる10日前まで生と死を見つめて書き続けた日記です。

### 『池田暁子の必要十分料理』(池田 暁子 著)

あなたは料理が得意ですか？この本は、愛媛出身の漫画家・イラストレーターである著者が試行錯誤した自炊生活のコツを、あなたに伝授する本です。淡々とこなせて、自分と家族の身体も、おカネも安心な、必要かつ十分な料理。まもなく卒業し、一人暮らしをするかもしれない3年次の皆さんもぜひ読んでみてください。



### 『中世ふしぎ絵巻』(西山 克 著)

中世とはどのような時代だったのでしょうか。山は鳴動し、馬が話し、龍が飛び、将軍は虹を飲み込み、百鬼が練り歩き、高僧は奇跡を起こす。日本の中世はふしぎな出来事がたくさん起きた時代でした。この本はそんなふしぎの背景を美しい挿絵とともに解説しています。激動の中世が体感できる現代版絵巻です。

## 〔7月 月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉

7月1日～7月31日

1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	合計
7冊	0冊	2冊	13冊	7冊	20冊	1冊	6冊	2冊	58冊

〈個人別〉

- 1位 8冊 (2-1) 清水 英磨
- 2位 4冊 (2-3) 清水 美愛



7月は本を借りる人が例年と比べて少なかったようです。読みたい本がないという人は、読みたい本を記入用紙に書いて、リクエストBOXに入れてください。また、借りた図書を返していない人が最近増えています。次にその本を読みたいという人のためにも、期限内の返却をお願いします。正しい返却方法も確認してください。

「読書は私たちに未知の友人をもたらす。」

オノレ・ド・バルザック (フランスの小説家/1799~1850)